

JA全農 とくしま情報

地域の話題や活動のご報告
今後のお知らせなど
JA全農とくしまと、あなたをつなぐ
コミュニケーション情報誌

2023
3月号
No.761



力強く「ガンバろう三唱」を行う河野職員(第16回JAふれ愛感謝フェア・徳島)

マンスリーレポート 2

- ・第16回JAふれ愛感謝フェア・徳島(農業機械大展示会)
- ・第57回スーパーマーケット・トレードショー2023
- ・ぷち★アソビvol.9で野菜や果物を販売
- ・徳島県にんじん振興協議会総会・にんじん出荷協議会
- ・「第23回佐那河内ふれあいまつり」農林産物品評会・表彰式
- ・令和4年度クロルピクリン剤適正使用対策会議
- ・第4回果樹部会「スダチ・ミカンにおける現状と課題」
- ・JA美馬「ちゃぐりんフェスタ」
- ・栄養士・調理師に向けてデコ巻きずしで食育推進事業研修会

旬の野菜でおうちごはん 7

- ・筍とツナのカレー炒め

浜ちゃん・ちっちゃんのうまいモノ絵日記 8

- ・その⑭ ～買い物困難者を支えるJAスマイル号～

交通安全お知らせ 8

- ・交通マナーアップ2023

トピックス 9

- ・営農コラム

マンスリーレポート

～最新の農業機械を一堂に展示～

第16回JAふれ愛感謝フェア・徳島（農業機械大展示会）

2月18日と19日の両日、本所耕種資材部中四国広域農機事業所徳島農機事務所は、徳島県JA会館で「第16回JAふれ愛感謝フェア・徳島（農業機械大展示会）」を開催しました。

当フェアは、最新の農業機械を一堂に展示し、安全で効率的な農作業の提案と、農家の計画的な導入の促進を目的として、平成17年度から開催しています。

18日朝の開会式では、本所耕種資材部中四国広域農機事業所前田志都樹事業所長、井関農機株式会社大本義直営業推進部副部長のあいさつの後、関係者によるテープカットや目標販売金額3億円達成をめざし、徳島農機事務所河野雄太職員の発声による「ガンバロウ三唱」が力強くおこなわれました。

会場には、トラクター・コンバイン・田植機の最新機種や、省力化に適した野菜専用農業機械の他、小物農機や中古農機が数多く展示されました。また、栽培管理をサポートする「ザルビオフィールドマネージャー」や自動で動き回り田植え後の雑草を抑える「アイガモロボ」など農作業の労働力軽減・高品質生産を実現するスマート農業の提案、自動操舵システムトラクターの実演もおこなわれました。

二日間とも多くのお客様が訪れ、担当者の説明を聞きながら各商品の機能や特徴を確かめ、お目当ての商品を購入されていました。

また、ジェイエイ徳島燃料サービス株式会社によるガス器具の展示やJA電気の紹介、当県本部営農支援課によるイチゴ「阿波ほうべに」「さちのか」の販売、展示商品購入者のお楽しみ抽選などもあり、土日の二日間で延べ約500人のお客様が来場されました。



関係者によるテープカット



力強く「ガンバロウ三唱」を行う河野職員



担当者より説明を受ける来場者



自動操舵システムトラクターの実演



商品説明を行う担当者



大勢のお客様が来場



イチゴの販売などを行う営農支援課職員



貸し切りバスでの来場者



ガス器具やJA電気の紹介を行うジェイエイ徳島燃料サービス株式会社職員

～徳島県産かんきつ果汁の消費拡大に向けて～

第57回スーパーマーケット・トレードショー2023

2月15日～17日の3日間、徳島県香酸かんきつ加工流通対策協議会(会長＝坂本雅彦副本部長)は、徳島県産かんきつ果汁の消費拡大に向けて、千葉県千葉市の幕張メッセにて開催された「第57回スーパーマーケット・トレードショー2023」に出展しました。

当イベントは、様々な業種のバイヤーなどの来場者に出展品の魅力を紹介し、新たな販売取引を創出するための取り組みとして毎年催されているものです。今年は全国各地からの地域産品メーカーや海外からの出展参加もあり、3日間の入場者数は62,525人と大盛況となりました。

徳島県ブースでは、徳島県産スダチ・ユズ・ユコウの100%果汁や、果汁加工品(ポン酢、ジュース)などを展示し、すだち大使や園芸部職員が来場者に徳島県産柑橘の魅力を紹介しました。来場者からはサンプル品や見積りの依頼などの反響も寄せられ、新たな販売取引の開拓に繋がる出展となりました。



徳島県ブースでPRを行うすだち大使の古川舞佳さん



出展ブースが並ぶ会場

～徳島県産の新鮮な農産物をPR～

ぷち★アソビvol.9で野菜や果物を販売

2月12日、当県本部園芸部は、徳島市東新町商店街で開催された「ぷち★アソビvol.9」において、来場者らに徳島県産農産物をPRしました。

このイベントは、春と秋に徳島市を中心に開催されるアニメイベント「マチ★アソビ」の番外編として、幼児から小学生までの子どもがマチを楽しむ!をコンセプトに、家族みんなで楽しめるアニメを中心としたファミリー向けの催しです。

当日は園芸販売課の職員がブロッコリーやレタス、キュウリ、イチゴ、ミカンなどの県産農産物や焼き芋を販売しました。焼き芋販売では「おいしい焼き芋が出来上がりました!」の売声に沢山のお客様が詰めかけ大変好評でした。

また徳島県のPRトラック「でり・ばりキッチン阿波ふうど号」では、当県本部米穀総合課が提供した徳島県産米「あきさかり」10kgで作ったおにぎりとおそば米汁がそれぞれ200人に振舞われました。



県産農産物を販売する園芸販売課職員



来場者へ県産米「あきさかり」のおにぎりなどが振舞われました

マンスリーレポート

～徳島県産春ニンジンの出荷開始へ向けて～

徳島県にんじん振興協議会総会・にんじん出荷協議会

2月10日、徳島県にんじん振興協議会および当県本部は、県内産地4JA、全国主力取引市場4社、徳島県および当県本部関係者出席のもと、「令和5年度徳島県にんじん振興協議会総会」および「令和5年産にんじん出荷協議会」を当県本部会議室において開催しました。

開会にあたり、長江郁哉徳島県にんじん振興協議会会長(当県本部長)と産地代表の橋本浩徳島県にんじん振興協議会副会長(JA板野郡代表理事組合長)のあいさつがおこなわれ、消費宣伝事業や出荷販売対策について協議をおこないました。

本年度の消費拡大キャンペーンとして「徳島県にんじんの日(4月12日)」を活用したイベントの開催や量販店での販促活動、YouTubeやInstagramなどSNSを活用したメニュー提案や情報発信といった従来の継続的な取組みの他、大手食品メーカーとのコラボによる新たな売り場作りや共同販促活動を展開し、消費地でのPR活動を強化する予定です。

なお、本年の徳島県産春ニンジンの播種面積は792.0ha(前年比97%)、計画出荷量は41,460トン(前年比102%)を予定しています。会議では、春ニンジンの生産量を維持していくために、当県本部をはじめ関係者一丸となって生産者手取り向上、再生産価格につながる取り組みをおこない、市場へは有利販売への協力をお願いしました。市場担当者からは「前段産地から徳島県産への売り場の切り換えと販売拡大に精一杯努めるので産地からの正確な情報発信とML中心の平準出荷をお願いしたい」との要望がありました。



あいさつを行う長江会長



あいさつを行う橋本副会長

～佐那河内村の最高級農林産物の品評会～

「第23回佐那河内ふれあいまつり」農林産物品評会・表彰式

2月2日、名東郡佐那河内村の佐那河内小中学校・体育館において、佐那河内ふれあいまつり実行委員会(会長＝岩城福治村長)主催、JA徳島市、当県本部、その他関係機関の協賛による、「第23回佐那河内ふれあいまつり」が開催され、農林産物品評会・表彰式がおこなわれました。

同村内で生産された野菜や果樹、花きなど152点の出品物を、JA徳島市、県東部農林水産局、当県本部営農支援課の職員が、各専門ごとに品揃い、品質、形状、色沢、糖度などの審査をおこないました。

厳正な審査の結果「色つきが均一で、果形も良く、大きさ、揃いともに優れ、選別もよくできていた」として、谷淵栄治さんのさくらももいちごが徳島県知事賞を受賞しました。表彰式では他に、JA徳島市組合長賞、JA全農とくしま県本部長賞などの各賞入賞者へ表彰状が授与されました。



営農支援課職員などによる審査の様子



入賞者へ表彰状を授与する坂本副本部長(左)



品評会の様子

～安全使用基準を順守し、環境に配慮した土壌消毒を～

令和4年度クロルピクリン剤適正使用対策会議

2月3日、当県本部営農支援課は、JA板野郡、JA大津松茂、JA徳島北、徳島県、当県本部など関係者28人出席のもと、「令和4年度クロルピクリン剤適正使用対策会議」を当県本部会議室において開催しました。

この会議は、徳島県のブランド品目である甘藷(なると金時)の栽培において、特に有効で不可欠な土壌消毒剤である「クロルピクリン剤」の使用について、関係者への注意喚起を図り、安全な使用を徹底していくことを目的として毎年開催しているものです。

会議では、肥料農薬課の中野和美課長が「砂地畑におけるクロルピクリン剤の安全使用について」と題し、薬剤を安全にご使用いただくための注意点や、農薬取締法や消防法など関連法令の遵守について説明をおこないました。

また、徳島県農林水産総合技術支援センター資源環境研究課の田中昭人専門研究員による「ガスバリアー性フィルム(祐作)の性能評価について」、同米本謙悟上席研究員による「ガスバリアー性フィルムを用いたクロルピクリン土壌くん蒸処理での被覆期間と処理間隔の最適化」と題した説明などがおこなわれました。

農薬を適正に使用し、安全・安心な農産物を生産することについては、農家だけでなく、消費者の関心も高くなっています。出席者は同薬剤を継続使用していくための適正使用を遵守し、今後も気を緩めることなく取り組むことを確認しました。



あいさつを行う営農資材部の大川部長



会議の様子

～産地と情報交換し効果的な果樹生産へ～

第4回果樹部会「スダチ・ミカンにおける現状と課題」

2月15日、徳島県農業技術普及連絡協議会(会長＝長江郁哉県本部長)は、県下4JA(徳島市・東とくしま・アグリあなん・名西郡)の担当者、徳島県、当県本部など関係者27人出席のもと、第4回果樹部会「スダチ・ミカンにおける現状と課題」を開催しました。

関係者は、JAアグリあなん管内のハウススダチとハウスミカンの園地を視察しました。その後、同JA会議室で開催された情報交換会では、各産地のハウススダチ、ハウスミカンの生育状況や令和5年産の露地スダチの※水挿し結果について、JAや農業支援センター担当者より報告がありました。

続いて、令和4年産の大裏年をふまえた今後の露地スダチの栽培管理について、農林水産総合支援センター高度技術支援課、当県本部営農支援課より説明がありました。その中で「令和5年の露地スダチは大表年となる可能性が高く、隔年結果が懸念されるため、母枝の※水挿しで着花量を判定してから園地の予想着花量に応じたせん定の実施が大切である」との説明がありました。

その他、スダチの貯蔵や貯蔵病害、肥料高騰対策等について発表があり、活発な意見交換が行われました。



水挿しによる着花量判定



あいさつを行う営農支援課の森課長



園地視察の様子

※採取した枝を容器内で水挿しし、一定の温度で加温することで、発芽や着花を早める方法

マンスリーレポート

～江原北小学校5・6年生が食育体験～

JA美馬「ちゃぐりんフェスタ」

2月13日、JA美馬（代表理事組合長＝藤本博明）は、美馬市立江原北小学校で「ちゃぐりんフェスタ」を開催し、同小学校5、6年生8人と教員、同JA職員・女性部、当県本部など20人が参加しました。

同JAでは、管内の子どもたちを対象に、食や農業への理解を深めてもらおうと「ちゃぐりんフェスタ」を毎年実施していましたが、新型コロナウイルス感染予防のため3年ぶりの開催となりました。

今回は、当県本部広報室の仁木室長が、地元の農産物を使用した「折りたたみおにぎらず」の指導をおこないました。児童たちは、美馬市産の米やレタス、キュウリ、菜の花などを使用し、自分で彩や折りたたみやすさを考えながら具材の位置を決め、楽しそうに挑戦しました。

続いて、JA女性部の方と一緒に鶏肉の漬け焼きを調理し、肉に火が通るように裏返したりフライパンの蓋をするタイミングや火加減を学びました。

昼食には、児童たちが作った「折りたたみおにぎらず」と「鶏肉の漬け焼き」、JA職員と女性部が調理した具だくさんのそば米汁が並び、みんなで美味しくいただきました。

児童たちはJAの活動や役割、食と農の大切さを学び「折りたたみおにぎらず」に入れた野菜が美味しかった」と話してくれました。

なお、この日の体験学習の様子はJA全農とくしまYouTubeチャンネルで配信する予定です。



児童へ指導を行う広報室の仁木室長



丁寧に位置を決め具材が置けました



女性部の方から肉の焼き方を教わる児童

～野菜摂取の大切さを伝える～

栄養士・調理師に向けてデコ巻きずしで食育推進事業研修会

2月22日と24日の2日間、美波保健所（海部郡）および阿南保健所（阿南市）において、同管内集団給食施設協議会主催の「地域における食育推進事業研修会」が開催されました。

研修会では、当県本部広報室の仁木室長（デコ巻きずしマイスター）が学校、医療機関などの調理師や調理員、栄養士ら出席者31人に対し「野菜摂取の大切さ」について講話をおこないました。その後、「県産・国産」を守るため生産者の現状を伝え、少しでも多くの県産・国産農畜産物を買っていただけるようお願いします。

続いておこなわれた地元食材を使用したデコ巻きずしの調理指導では、参加者全員日々調理業務に従事していることもあり、デコ巻きずしをスムーズに作り終えました。調理後は「実体験をお話していただき、改めて野菜摂取の大切さを実感した」「デコ巻きずしは思っていたより簡単にできたので、今後の給食に取り入れることを検討したい」などの感想が聞かれました。

当県本部では今後も、徳島県産農産物の魅力やおいしさを伝え、食への意識を高め健康増進に繋げる楽しい食育活動の支援を行ってまいります。



美波保健所で講話を行う広報室の仁木室長



阿南保健所で調理を行う出席者



筍とツナのカレー炒め



▼材料(4人分)

ツナ缶(オイル漬け)……1缶(70g)
 筍(水煮)……………400g
 パセリのみじん切り……………10g

A カレー粉、砂糖、醤油…各大量

▼作り方



① 筍は根元をイチョウ切りに、穂先は串切りに切る。



② フライパンにツナ缶の油だけを入れて熱し、①の根元部分を先に1分ほど炒め、穂先部分を加えて更に1分程炒める。

③ ②にツナとAを加えて水気がなくなるまで炒め、仕上げにパセリのみじん切りを混ぜる。

POINT

ツナの油で炒めるとコクが増す



料理研究家 HITOMI <http://www.hitomi-cook.com>

◎免許：調理師免許、食空間テーブルコーディネーター2級、JA全農とくしま園芸部 クッキングアドバイザー
 ◎賞：2014年NHK社会貢献賞授与 ◎活動歴：TV=NHK徳島放送局料理コーナーレギュラー出演／ラジオ=TBS「伊集院光とラジオ」とに毎月レシピ提供 ◎JA全農とくしまとのコラボイベント：大阪ガスハグミュージアムにて鰻を使った爽やか料理講習会／大阪中央卸市場にて徳島県の食材を使った料理講習会 ◎カルチャー講師：兵庫イオンカルチャー(姫路、加古川、明石の3店舗)講師／神戸市立長田区勤労センター、神戸市立西區民センター講師 ◎店舗用レシピ開発、商工会での商品開発など



その 154

～買い物困難者を支えるJAスマイル号～

◆スーパーがコンビニに◆

自宅から一番近い中型の有名スーパーが撤退して、小さいコンビニになってしまった。地域からスーパーが無くなった訳ではないので、ちょっとした食料品は買えるが、車の足を伸ばしてスーパーがある隣町に向かうか、仕事の帰り道にあるスーパーに立ち寄る事が多くなった。

私の自宅がある鳴門市はまあまあ、人口も多いと思っていたが、少子高齢化の波をジワジワと肌で感じる事実である。

◆来てくれるのを楽しみに待っている◆

鳴門市よりももっと過疎化が進み、限界集落と言われている上那賀地域はどうだろうか。若いときに3年間農業支援センター相生支所に勤務していた時からの知り合いで、現在JAアグリあなん那賀事業所の井本一郎所長に電話で何うと、令和4年6月から移動販売車が地域を巡回して、食料品を中心に販売している。月～金の週5日、旧上那賀地区を巡回している。利用者からは、「山間部では近くに店もないし、こんな新鮮なお刺身が買えるので、週1回の贅沢ができるわ」や「待ったったんよ、ありがとう」など移動販売車が来るのを楽しみにしていただいております。移動販売車は、肥料の取り次ぎや、地域高齢者の見守りも同時に行っており、JAの新事業は地域のために多に役立っている。

◆買い物困難者や買い物弱者を支援◆

高齢化や単身世帯が増加すると、いわゆる「買い物困難者」や「買い物弱者」などと呼ばれる「食料品の購入や飲食に不便や苦勞を感じる方」が増え、極めて深刻な社会問題となっている。こうした中、地域からの要望もあり、隅々の家まで知っているJAが、様々な支援をおこなっているのは、地域にとってもJAにとっても素晴らしい取り組みがすすんでいると思う。

◆地域がスマイル(笑顔)に◆

井本所長が淡々と説明してくれる地域支援の新事業に目頭が熱くなった。同時に、地域に根付いているJAだからこそ、できることがあるんだと思えた。移動販売車の愛称は「JAスマイル号」。その名前の通り、皆を「笑顔」にしているJA移動販売車である。



交通安全のお知らせ

交通マナーアップ2023

徳島県内における過去10年間の自動車対歩行者の事故をみると、その約半数が道路横断中に発生しており、その内の約半数が横断歩道上で発生しています。

主な原因は、

自動車側の横断歩行者妨害等の交通違反

となります。

また、昨年JAFが行った信号機のない横断歩道における車の一時停止率では、

徳島県内 32.0%

全国平均 39.8%

と全国平均を下回っています。

そこで、県警察では、本年を「交通マナーアップ2023」と銘打ち、歩行者保護の徹底につながる情報発信や交通指導取締り等を推進して参りますので、みなさまのご協力をお願いします。

【横断歩道等における歩行者等の優先】

※道路交通法第38条第1項

○横断歩道等を通行する際の減速

車両は、横断歩道や自転車横断帯に接近する場合は、進路の前方を横断しようとする歩行者等がいことが明らかな場合を除いては、その横断歩道等の直前で停止できるような速度で進行しなければいけません。

○横断歩行者等がいるときの一時停止

横断しようとする歩行者等があるときは、横断歩道の直前で一時停止し、かつ、通行を妨げないようにしなければいけません。

〈違反点 2点 反則金 普通車 9,000円〉

【横断歩道又は自転車横断帯ありの道路標示】

道路にあるひし形マークの意味は、その先に横断歩道又は自転車横断帯があるという道路標示です。



【ドライバーの皆さんへ】

横断歩道等があるときは、スピードを落とし、横断歩行者の有無を確認して、歩行者の横断を妨げないようにしましょう。

【歩行者の皆さんへ】

道路を横断する時は左右をよく確認し、大人も子供も手を挙げて渡りましょう。



徳島県警察本部 交通企画課

営農コラム

八重桜、牡丹桜

営農支援課 技術主管 森 聡

華やかで優雅に咲き誇った桜(ソメイヨシノ)の散りゆく様を見て、今年の桜を名残惜しんでいるところに、その寂しさを和らげてくれるかのように咲いてくるのが八重桜(ヤエザクラ)です。桜の一重咲きの淡いピンクの清楚な趣とは異なり、大きくて見ごたえのある重厚な八重咲きの花を枝いっぱい咲かせます。

八重桜とは八重咲きの桜の総称であり、牡丹桜(ボタンザクラ)は八重桜の別名です。牡丹桜の名前の所以は花が大きくて花びらも多く、まるで牡丹のようであるところからきています。ソメイヨシノのような一重咲きは5枚の花びらを付けますが、6枚から10枚ほど付けるのを半八重咲き、10枚以上付けるのを八重咲き、さらに多くの花びらを付けるのを菊咲きと呼んでいます。

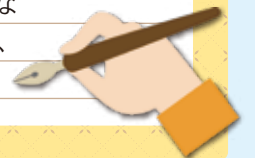
桜といえばソメイヨシノがすぐに思い浮かびますが、これは江戸時代後期に大島桜(オオシマザクラ)と江戸彼岸桜(エドヒガンザクラ)の交配で生まれた比較的新しい桜です。成長が早く、早くからたくさんの花を付けるため花見用の桜として全国に広まり

ました。

ソメイヨシノに比べて、八重桜の歴史は古く、平安時代の百人一首に「いにしへの奈良の都の八重桜けふ九重にほひぬるかな」(いにしへの奈良の都の八重桜が今日はこの平安の都の宮中でひととき美しく咲いていることよ)と詠まれているように、遠く奈良時代の昔から親しまれてきました。

八重桜の代表的品種には、濃いピンクの大輪の花を咲かせる関山(カンザン)、咲いている間に花の色が変わっていく普賢象(フゲンゾウ、2本の雄しべの形状が普賢菩薩の乗る象の鼻に似ていることが名前の由来)、淡紅色で大輪の優美な花の福祿寿(フクロクジュ)、白花の代表白妙(シロタエ)、桜にはめずらしい黄色の花の咲く鬱金(ウコン)などがあります。

一重咲きのソメイヨシノの花が枝いっぱい広がって咲いている姿はみごとで思わず見入ってしまいますが、花そのものが大きくて重厚な八重桜は、見るものを圧倒する美しさ、魅力を持っています。



コンプライアンス統括課

～全農理事長による職員講話～

令和4年度理事長講話

2月17日、徳島県JA会館会議室において、当県本部および子会社の役職員(125人出席)に対し、野口栄理事長、伊藤康浩中国四国地区担当部長出席のもと「令和4年度理事長講話」をおこないました。

野口理事長からは「変化の激しい今の時代は新たなビジネスが始まる時。コロナ禍以降、真に価値のあるものが評価される時代となっている、失敗を恐れず新規事業に挑戦してほしい。生産者や生産法人から寄せられるJAグループへの期待はかつてないほどに大きい。その負託に応えるべく皆さんも一緒に頑張りましょう」と講話をいただきました。

また、意見交換の際には、役職員からの質問に対するご回答と、本会が取り組むべき方向性や課題解決についての指針をいただきました。



オンラインで視聴する職員



講話を行う野口理事長



会場の様子

産直市「とくしまマルシェ」出店

当県本部園芸部は、県内JAと協力し、徳島市東船場町のしんまちボードウォークで毎月最終日曜日に開催される産直市「とくしまマルシェ」に出店しています。

2月26日は、JA徳島市とJA板野郡が出店し、カリフラワーやレンコン、甘藷、イチゴ、ドレッシング等の青果物や加工品などの販売をおこないました。温かい「春にんじんのすうぷ」や甘藷、カリフラワー、レンコンの「天ぷら」の試食も好評で、家族連れなどたくさんの買い物客で賑わいました。

今後とも「とくしまマルシェ」への参加を通じて、県産農産物等のPRをおこなってまいります。

本件に関するお問い合わせは、園芸販売課（電話 088-634-2514）まで。



<https://tokushima-marche.jp/>



JA徳島市・JA板野郡の出店



試食も好評！

すだち大使を募集します！

徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会（会長＝長江郁哉県本部長）は、徳島県産すだちを全国にPRする活動に協力していただく、2023年～2025年「すだち大使」を募集します。

県内外のイベントでの宣伝活動や、テレビ・ラジオなどマスメディアへの出演など、2年間にわたり意欲をもって取り組んでいただける方のご応募をお待ちしています！募集についての詳細は裏表紙をご覧ください。



2024年新卒採用エントリー開始

JA全農は、令和5年3月1日（水）より、2024年新卒採用のエントリーを開始しました。3月27日（月）まで、以下のアドレスにて受付しています。



<JA全農・新卒採用情報ページ>

<http://zennoh-recruit.jp/index.html>



～令和5年度事業計画について委員に説明～

令和4年度 経済事業推進委員会

2月14日、当県本部は「令和4年度経済事業推進委員会」をJA会館別館大ホールおよびJA会館特別会議室、当県本部会議室において開催しました。

この委員会は、県本部運営委員会の下部組織として、JAグループ徳島の経済事業の発展に期することを目的に毎年開催しており、米穀・畜産・園芸・生産資材・生活の5事業について県下13JAから推進委員を選任いただいています。

各委員会では、始めに長江郁哉県本部長より県本部全体の令和5年度事業計画について説明があり、

その後の分科会にて令和5年度の部所別事業計画や重点実施策、事業推進要領について協議をおこない全て承認されました。



あいさつをする長江県本部長

～組合員や地域住民の笑顔があふれる～

県下JAで展示会や 農業祭など多彩に開催

県内のJAでは、組合員や地域住民の皆様とのふれあいを通じ、絆を深める場として、総合展示会や農業祭・JAフェアなどを開催しています。

2月4日にJA名西郡神山地区で開催された展示会では、地元の特産品や加工品の紹介、展示即売会、女性部によるあめ湯の無料配布や抽選会などがあり多くの来場者で賑わいました。



多くの来場者で賑わうJA名西郡神山地区展示会

退職

令和5年2月28日付

氏 名	部 署
江本 果穂	管理部 企画管理課 総務課兼務

ガス給湯器・ガス衣類乾燥機で快適ライフ！

お気軽にお問い合わせください！
詳しくは下記番号まで



ジェイエー徳島燃料サービス(株)
088-695-5380



あなたの笑顔で
すだちを全国に
PRしませんか

徳島

すだち大使 3名大募集

The Sudachi Ambassador
2023-2025

副賞として 謝礼20万円をプレゼント

募集期間 2023年3月1日(水)～4月26日(水) 【お問い合わせ】
徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会
応募資格 県内在住の18才以上の方 事務局:Tel.088-634-2514(JA全農とくしま)



JAタウン
「新鮮大好き徳島」



JA全農とくしま
YouTubeチャンネル



JA全農とくしま
Instagram



JA全農とくしま
クックブック



JA全農とくしま
ホームページ

全農グループ経営理念

私たち全農グループは、**生産者と消費者を
安心して結ぶ懸け橋**になります。

—私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

全農

JA全農とくしま

<https://www.zennoh.or.jp/tm/>



「JA全農とくしま情報」に 関するお問い合わせ先

本紙「JA全農とくしま情報」の購読料・配送料は
無料です。送付先の氏名・住所変更や、
送付の停止につきましては、
JA全農とくしま企画管理課広報室
(電話 088-634-2462)
までご連絡ください。

